



「オリエンテーリング」

～安全にかかわるお話～

・走らない、登らない

山の中は、石や木の枝、根っこなどつまずきやすいものが多いので、思わぬ大ケガにつながります。仲間とはぐれないためにも、絶対に走らないようにしましょう。

また、木や建物の屋根など、危険な場所へ登ることはやめましょう。

地図をよく見ながら、山の中をくまなく探検し、ポストをより多く見つける活動ですので、協力しながら安全に活動することが大切です。

・仲間と一緒に行動する

気象条件によって道に迷ったり、遭難したりする可能性があります。命にかかわる事故につながるため、グループで声を掛け合い、はぐれることがないようにコミュニケーションをとって行動しましょう。特に、単独行動は、熊と遭遇しやすく危険なため、グループやバディでかならず点呼をとりましょう。

例) 運動の苦手な友達や足が痛い友達を気遣って、ゆっくりみんなで歩く

「ちゃんとして来いよ」「遅くないもん！」と喧嘩になった末に、隊列の距離も心の距離もあいてしまうケースがあります。

靴ひもがほどけるなどトラブルがあったら、すぐ近くの友達に声をかけましょう。

「こっちをさがすから、あっちを探して！」と班を分断しないようにします。

・不安になったらもと来た道を引き返す

「おかしいな？」と誰かが気づいたら、いったん止まって、もと来た道を引き返すようにします。引き返すことも、素晴らしい判断であり、勇気です。

特に夏場、雷の音が聞こえたり、急に気温が下がったり、風が強く感じたりした際は、天気が急変する場合がありますので、すぐに引き返しましょう。

【引率者の皆様へ】

- 熊鈴は携行しているか、確認をお願いいたします。
- 活動の終了時間を伝え、安全確保のために減点の要素があることを伝えてください。
- 団体内での連絡体系を整え、有事の際に対応できるようご準備ください。
- 上記「セーフティークの内容」を必ず子どもたちに伝えてください。
- 活動の最初(はじめ)と終了後に必ず点呼をとり、自然の家まで報告をお願いいたします。

